

今年から選挙権年齢が二十歳以上から十八歳以上に引き下げられ、私も選挙に参加できる国民の一人となりました。しかし、選挙できるようになったとはいえ、正直私は、あまり政治にも関心がなかったし、難しそうで、自分にはまだ早い気がしていました。だから投票しに行きたいという気持ちはほとんどありませんでした。学校帰りに立候補者のポスターが貼ってある掲示板を見ても、知らない人ばかりで誰に投票していいかも分かりませんでした。しかし、投票日が近づくにつれて家族から、「せっかく投票する権利があるんだから行って見たら？」と言われ、また、選挙に行ける友人にも投票に行くかどうかを尋ねると、行くという人が多かったので、私も投票しに行くことに決めました。投票すると決めてからは、新聞やテレビを見て研究したり立候補者のことを祖父に聞いたりして情報を集めました。

選挙当日、母と双子の妹と一緒に投票所へ行きました。投票所に行くと、初めはどうしてよいか分からず少し戸惑いましたが、意外と同世代の若い人や小中学校の同級生も多くて安心しました。投票は並ばずに、スムーズにすることができました。今回、初めて投票用紙に触りましたが、ツルツルしていて、びっくりしました。

夜、選挙速報をテレビで見ていると、私が投票した人が当選していて、自分のたった一票ですが、反映されている気がしてうれしく思いました。

現在、高齢有権者の比率が若年有権者の比率を大きく上回っていて、これからは増えていく高齢世代を数少ない若い世代が支えていかなければなりません。だから、高齢者の意見に若者が従う必要がでてくる、つまり、支えつつ自分の意見が反映されないこともあります。だからこのことを若い人が自覚し、自分たちの主張を投票を通じて行っていくことが大事だと思います。今回は初めての選挙で分からないことも多く、緊張しましたが、政治に関心をもつきっかけにもなりました。今回の経験を生かして、次の選挙も投票をしに行きたいと思います。